

# いしのまき水辺の緑のプロムナード計画の概要 (H25年3月)

<石巻市>

## 計画策定の背景・目的

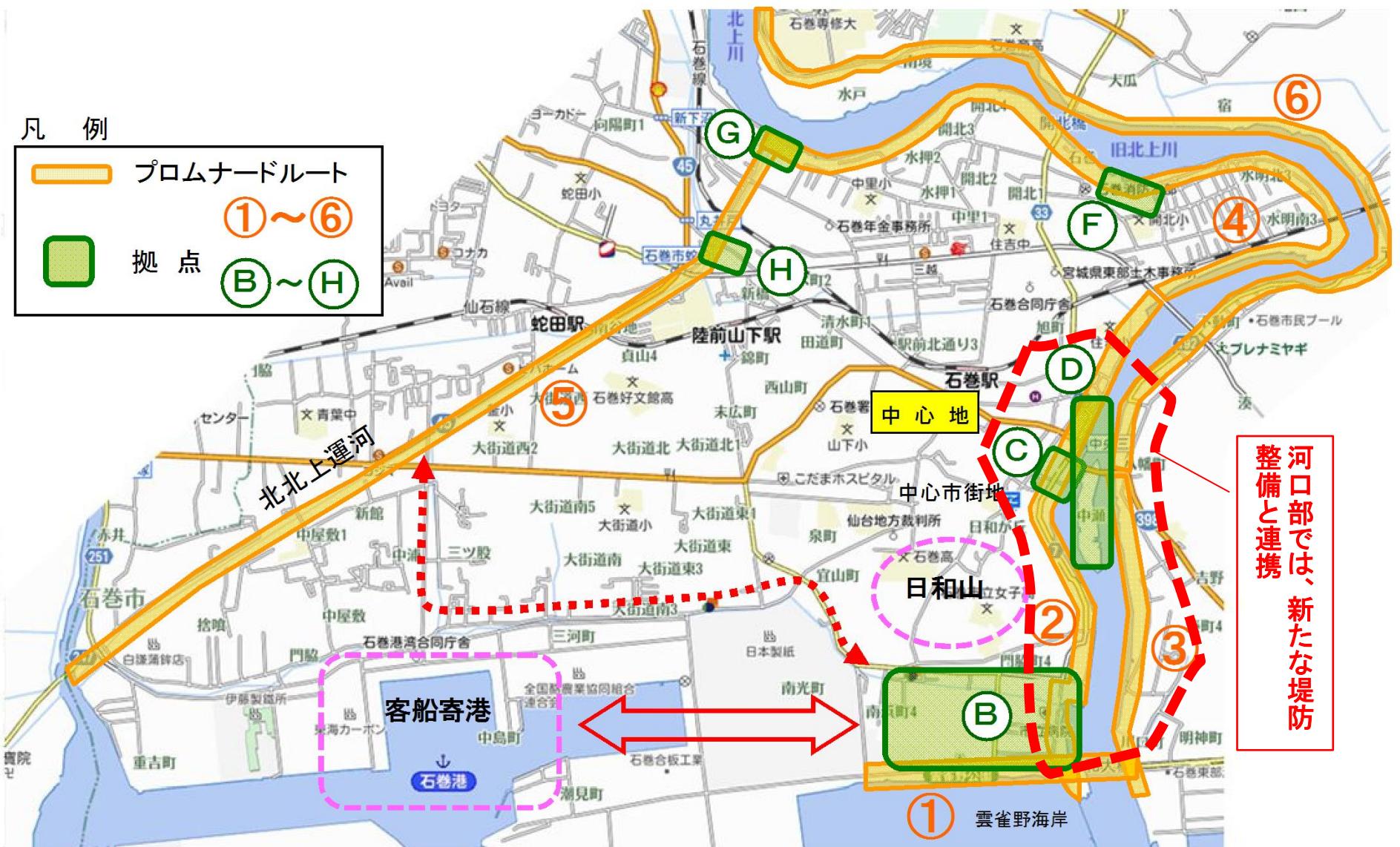
- ◆ 石巻市は、川湊として発展してきた街であり、大震災からの復興にあたって、水辺と親しみながら人々が集い、交流し、まちが賑わいを取り戻す街づくりが不可欠。
- ◆ まちの中心部を囲むルートと拠点を配置、河川堤防を活かした整備等で、まちづくりを行う計画。

- 悠々とした流れを感じる旧北上川
- 近代日本開拓の息吹を感じる北北上運河(貞山運河)
- 潮風を感じ往来する船舶を眺められる雲雀野海岸
- 水運で栄えた石巻の顔、各所に点在する観光資源

これらを一体的に活用し、河川や水辺を活かしたまちづくりを目指す。

- ① 市民や観光客が気軽に水辺を楽しみながら、石巻湊の歴史・文化等を知る。
- ② 将来を担う子供たちに旧北上川と石巻市の発展の関わりを学び知ってもらう。
- ③ 人々の憩いと健康の増進。
- ④ 中心市街地に賑わいを取り戻し、観光振興などを期待。

## ●いしのまき水辺の緑のプロムナード計画 全体図 (H25年3月)



※ H23年2月計画策定直後、東日本大震災が発生。  
 上図は石巻市震災復興基本計画に基づく土地利用等を踏まえた、一部見直し(H25年3月)後の計画全体図。  
 ※ 拠点AとEは、計画見直しの中で、拠点Bに機能を集約し、欠番となっている。

● 計画につきましては、石巻市HP>市民の方へ><くらしと仕事>都市開発・まちづくり>(川まちづくり)いしのまき水辺の緑のプロムナード計画をご覧ください。  
<http://www.city.ishinomaki.lg.jp/cont/10507000/8290/8290.html>

# いしのまき水辺の緑のプロムナード計画（抜粋）

## — 河川堤防を活かしたまちづくりの整備イメージ —

ルート  
**2** いにしへの石巻湊と賑わいを訪ねる  
「旧北上川と石巻湊ルート」

※以下の内容はプロムナード計画の整備イメージ抜粋であり、関連事業については、今後の検討により変更があり得ます。

**ルートイメージ**

**護岸イメージ**

一部には水辺に触れることができ、昔の石積護岸を思い出すような護岸を設置する

**水際の滞留空間イメージ**

水際の景観を楽しめるよう部分的に滞留空間を設置、水辺の変化を持たせる

拠点  
**C** 雄大な旧北上川を眺めながら石巻の食を堪能する  
「食彩・感動いしのまき」

拠点  
**D** 川と共に暮らして「かわみなど・石巻」の歴史と文化の伝承  
「『石巻の歴史』と『水と共に生きた文化』を伝えるシンボル空間」

**拠点イメージ**

※上図は堤防背後の再開発検討地区から水辺に至るプロムナード計画のイメージであり、今後の検討により変更があり得ます。

**堤防と背後地再開発の接続イメージ**

例1 プロムナードによる空間の創出

例2 プロムナードによる空間の創出

**拠点イメージ**

※堤防や公園、橋等の施設はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。

ルート  
**3** 新たに産業と居住集積を考慮した拠点的ルート  
「居住と産業が隣接した憩いのルート」

**ルートイメージ**

**連続植栽のイメージ**

背後の土地を活用して桜堤や連続する植栽、並木道等により人々の集まる空間と景観に配慮。連続する植栽により生み出される空間では屋台など集客のためのスペースとしても活用し、ルートそのものが拠点性を持つよう工夫

水際の景観を楽しめるよう部分的に滞留空間を設置、水辺の変化を持たせる

5-3 プロムナード拠点 祈念公園と水上交通拠点

拠点  
B  
拠点テーマ

「鎮魂」「祈り」「震災アーカイブ」「復興支援に対する感謝」及び「離島航路との結節点」「マリナー機能」「客船寄港との連携」等  
「鎮魂と祈りと絆の杜／水上交通拠点」

拠点イメージ

■祈念公園

- 震災の記憶を伝承する、鎮魂・祈りの場となる。
- 鎮魂と慰霊のモニュメントや催事の広場、伝承の施設等が考えられる。
- 地域の絆を深める場所として機能するように、イベント広場や、子供も楽しめる施設も必要。
- 潮風に強い樹種の植樹帯などの工夫をする。

■水上交通、水面利用

- 離島航路発着所の復旧と合わせて水辺の拠点整備で機能拡大も可能
- プレジャーボート等を収容するマリナー機能を確保する。
- 停泊する船舶や日和大橋や河口などを眺めるビューポイントとしても楽しめる場所とする。



離島への定期航路の発着所

※拠点Bは、旧計画の拠点A、B、Eを集約

※堤防等はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。



レクリエーション広場でのイベント等



マリナーイメージ



広場とモニュメントのイメージ  
(北海道奥尻町 徳洋記念緑地公園)

5-2 雲雀野海岸・日和大橋 プロムナードルート

ルート  
1  
ルートテーマ

海に思いを馳せる  
「太平洋を眺める潮風のルート」

ルートイメージ

- 海岸防潮堤に沿って、海を眺める視点を設ける。
- プロムナードとしてのルートは公園敷地内とも連携させ、海辺を眺める視点は祈念公園とも分担して多様な眺望を創出する。
- 安全を確保しつつ、ルート①と祈念公園の往来もできる設定を考慮

石巻港の客船寄港と連携したルート

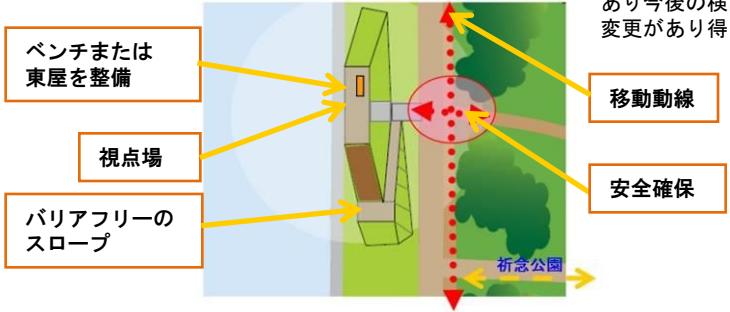
公園内にも海を眺める視点場(盛土等)を設置し、ルート①と合わせて多様な眺望を確保



スポット的に盛土を行い、海を眺望出来る視点場の確保

視点場設置のイメージ

※堤防等はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。



ベンチまたは東屋を整備

視点場

バリアフリーのスロープ

移動動線

安全確保

7-4 大橋地区 プロムナード拠点

拠点  
F  
拠点テーマ

水辺のレジャーも楽しめる防災拠点  
「旧北上川水辺広場」

拠点イメージ

- 現在、仮設住宅として利用されていることから、今後のまちづくりとの整合を図りながら検討していく。
- 市街地を流れる旧北上川沿いには、多くの人が集い、水辺と親しめるポイントが少ないため、多目的グラウンド(芝生広場)として子供たちが遊び回れるような空間とする。
- 周囲よりも地盤が高くなることから、洪水等の緊急時には、水害対応の指揮や地域住民の避難場所等として活用可能。また、当該地区は築山や建物等を設置することで、津波来襲時の一次避難所としての活用も可能。
- 石巻大橋から石井閘門までの散策路(堤防上)では木陰が無いから、拠点に植樹して木陰を形成(樹木は水害時に水防対策として活用できる樹木を選定=水防資材)
- 人が集まるための駐車場も併設。

河川防災拠点整備イメージ



大規模災害発生時と平常時における防災拠点の機能

平常時には

- スポーツ、レクリエーションの場
- 河川等に関する情報発信の場
- 地域の方々のコミュニティ施設
- 地域の野外活動の場
- 各種イベントの開催



洪水等の緊急時には

- 水防情報の受発信基地
- 土砂、ブロック等備蓄した資材による緊急復旧の拠点
- 地域住民の緊急避難場所
- 水防司令室
- 水防回待機所
- ヘリポートによる緊急輸送



7-2 旧北上川右岸上流(水明~大橋~運河交流館) プロムナードルート

ルート  
4  
ルートテーマ

旧北上川の風と風景を楽しむ  
「川の風を楽しむルート」

ルートの方向性

- 川の風と風景を楽しみながら、散策、サイクリング等ができるルート
- 堤防上には散策路(サイクリングロード)が整備済みであり、移動途中に休憩し、水辺の景色を眺められるよう配慮
- 旧北上川の右岸河畔でも川とふれあえる河川敷があり、河川敷を使ったイベントなどの利活用が期待できる。

- 河川敷の利活用が推進されるよう、水辺をゆっくり眺められるベンチの増設やPRを推進。また川の生物・植物を調べる子どもを対象とした学習会の開催も検討。



- 旧北上川河畔のルートでも、河川敷がある当ルートの特性を活かし、河川敷での更なる利活用が推進されるよう、公園的な整備を検討。

- 開北橋等を利用した対岸のルートとの広域的なネットワークを可能とするため、サイクリングロードや、イベント時の対岸への渡し等の活用について検討。

